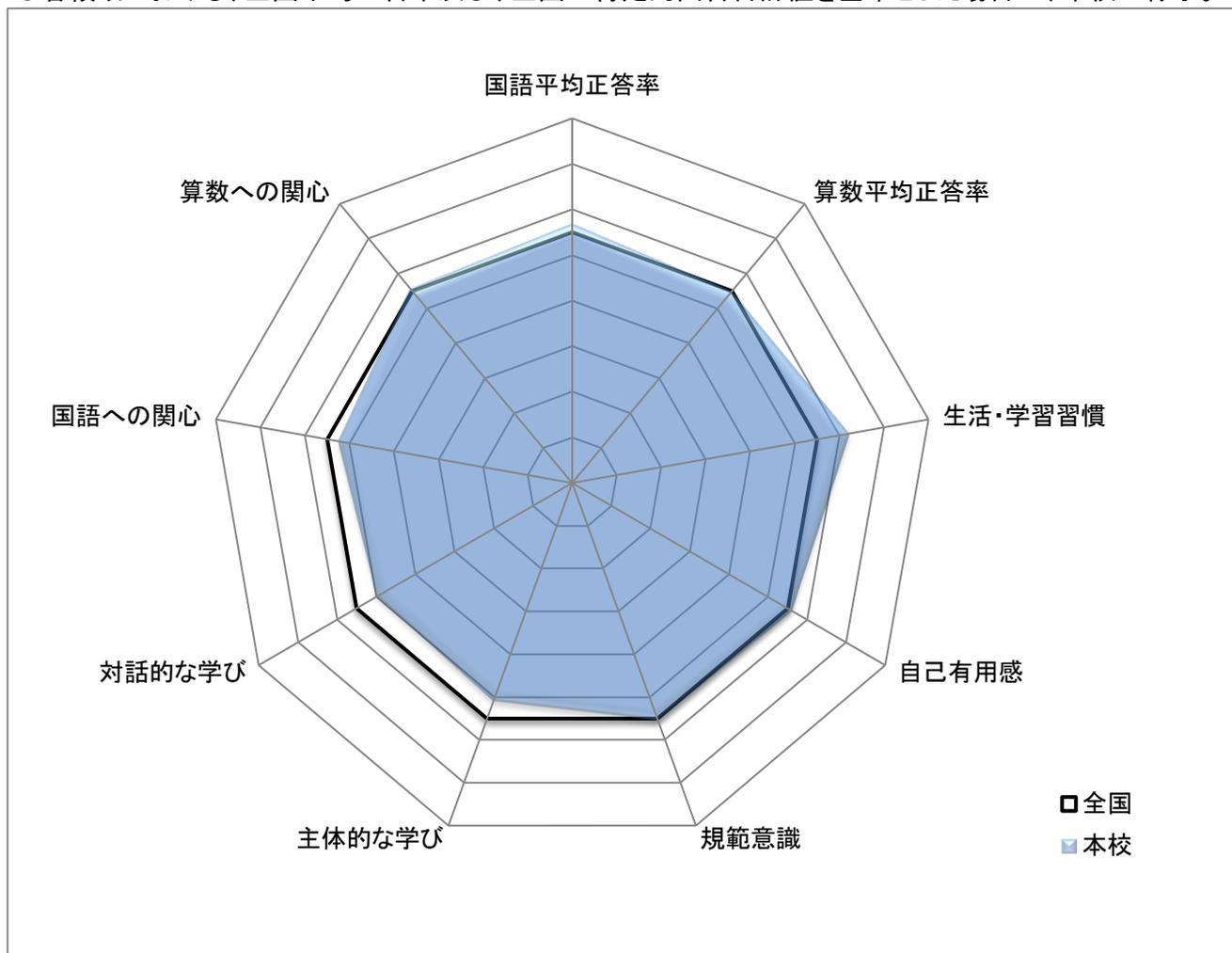


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語の教科学力は、全ての項目において全国平均を上回った。「読むこと」「書くこと」の領域に強みがあり、記述式で自分の考えを表現する力が身に付いてきていると考える。  
算数の教科学力は、全国平均とほぼ同等のバランスのよいグラフとなったが、「数と計算」「図形」の項目は全国平均を下回った。  
どちらの教科に関しても、思考力を課題としている傾向がある。目先の課題だけではなく、応用問題にもすすんで挑戦する児童の育成を目指していく。

《授業改善のポイント》

国語の授業では、目的に応じ、話の内容が明確になるように構成を考えたり、表現したりする活動を積極的に取り入れていく工夫を行っていく。また、漢字や文法を始めとした基本的な知識・技能を確実に身に付けていくことを今後も継続して指導していく。  
算数の授業では、既習内容と関連させて考えをもち、自分の考えを正しく表現する力を身に付ける必要性を感じる。そのために、授業の始めに、関連する既習内容の復習を取り入れる工夫を行っていく。  
国語・算数に限らず、話を最後までよく聞いたり、問題を正しく理解したりすることを意識させる声掛けを行っていく。

《チャートの特徴》

全体的に見ると、児童の意識調査に関する項目は全国平均に比べて高く、一方の教科に関する項目は全国平均に比べて低いという特徴が見られる。  
教科に関しては、「国語への関心」「対話的な学び」「主体的な学び」の3つの項目が全国平均に比べて低いという結果が出ている。  
児童の意識調査に関しては、「生活・学習習慣」の項目が全国平均を大きく上回っている。基本的な生活や学習習慣は十分に身に付いていることが考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

SNSルール強化習慣の取り組みを通して、SNSやICT機器の使い方について家庭での意識を高める。児童が所持しているiPadは、有効に活用すれば学習への関心を高める工夫の一つになる。家庭でのSNSの使い方指導の協力を呼びかけ、適切にICTを取り入れたい。